

指定管理者評価シート

事業名	札幌コンサートホール運営管理費	所管課(電話番号)	市民文化局文化部文化振興課(211-2261)
-----	-----------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌コンサートホール	所在地	中央区中島公園1番15号
開設時期	平成9年7月	延床面積	20,746.14㎡
目的	音楽の鑑賞その他音楽に関する活動の場を提供すること及び音楽に関する事業を行うことにより、音楽芸術の振興及び音楽を通じた国際交流の推進を図ることを目的とする。		
事業概要	ホールやリハーサル室等、施設の管理運営。音楽芸術振興のための主催事業の実施。		
主要施設	大ホール、小ホール、大リハーサル室、小リハーサル室A、小リハーサル室B		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市芸術文化財団		
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
募集方法	非公募 札幌コンサートホールは札幌市における文化芸術振興の中核となる施設の1つであり、音楽芸術の振興及び音楽を通じた国際交流を図る多様な事業を引き続き実施していく等のためには、指定管理者には専門的な知識や経験、幅広いネットワークが必要となる。また、管理運営にあたっては長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成、ノウハウの蓄積などを特に必要とするほか、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となることが必要であることなどから、非公募とした。		
指定単位	施設数: 1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、施設における事業の計画及び実施に関する業務		
3 評価単位	施設数: 1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和4年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>音楽文化の創造・形成という理念のもと、次の6つの基本方針を策定している。</p> <p>①「質の高い音楽を鑑賞できる機会の提供」 ②「次世代の演奏家や新たな聴衆の開拓に努め、誰もが音楽を楽しめる開かれたホールへ」 ③「子どもたちが音楽と出会い、感性を育む機会の充実」 ④「音楽文化の拠点として地域貢献できるホールの運営」 ⑤「安心、安全で快適な環境の提供」 ⑥「運営の透明性と利用者の声の反映」</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>▼ 「札幌市の公の施設として、平等・公平な利用に向けて運営を行う」という方針を策定し、条例・規則等に基づく公正な利用申込機会の提供や、音楽専門家などの学識経験者も含む貸館審査委員会による公平・公正な審査を実施した。</p> <p>▼ 札幌市の音楽文化の振興、発展のために重要とみなされ、市民の要望の強いアーティスト等の公演や、長期間の準備期間が必要となる公演については、一般利用に先立っての申請が可能な制度に従い、貸館審査委員会に諮り対応した。</p> <p>▼ 新型コロナウイルス感染症拡大予防については、業種別ガイドラインに則った対応を行い、HPやメール等を活用して、情報をすばやく、平等に行き渡るように手配した。</p> <p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p> <p>▼ エネルギー管理標準(平成18年制定、令和3年改訂)の規定に基づき、省エネルギーに取り組んでいる。省エネルギー推進委員会を設け、定期的に省エネルギー推進活動の検討を行っている。</p> <p>▼ 北海道電力との需給契約電力(高圧)を1050KWから1000KWに変更し使用電力の低減に努めた。</p> <p>▼ 設備委託業者の業務日誌などで使用量を日々確認し、省エネルギー化の推進を行っている</p> <p>▼ 札幌市環境マネジメントシステムに則り、各種報告を行った。</p>	<p>基本方針に基づきホールの管理運営及び事業を展開するにあたって、施設の設定目的を実現するための行動指針とすることができた。</p> <p>ホームページで貸室の空き状況を一般公開し、随時、利用者へ申込機会を提供している。一斉受付において希望者が多数の場合には、公平な抽選を実施するなど、平等・公正な貸館運営を行った。</p> <p>また、コロナ対策についても随時、職員や常駐業者と情報共有を図り、全ての施設利用者へ速やかに情報が伝達できるよう取り組むことができた。</p> <p>日常的に使用状況を確認し、実施可能な省エネルギー化を進め、電気・ガス使用量の削減を図った。</p>	<p>A B C D</p> <p>利用者や運営協議会での意見をもとに継続的に業務改善を図り、関係者間で情報共有を行っているほか、有識者の助言を事業に反映させるなど、市民サービスや管理水準の維持向上に努めている。また、貸館利用については、平等な施設の利用機会を確保するための運営に努めている。加えて、従来より、継続して省エネルギーのための取り組みを実践しており、環境と経費削減の両面から効果を上げている。以上のとおり、本市の要求水準を満たす適正な運営管理を行っている。</p>

<p>▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)</p> <p>▼ コンサートホール事業部長(支配人)を施設の統括責任者として配置している。また効率的な運営を行うため、責任体制の明確化を図るとともに、事業の特性を考慮した職員配置を実施している。</p> <p>▼ 人事異動などにより変更となった業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を定めた。</p> <p>▼ 基礎的、専門的な知識の向上のため以下の職員研修を実施、また、外部団体主催研修に職員を派遣した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4-5月 新採用職員研修 ・4-5月 コンプライアンス研修 ・6月 パソコン研修 ・6月 普通救命講習 ・8-9月 管理職マネジメント研修 ・10月 コンプライアンス研修 ・12月 管理職マネジメント研修 ・1-2月 情報セキュリティポリシー研修 ・2月 公式HP担当者研修 <p>▽ 管理水準の維持向上に向けた取組</p> <p>▼ 財団内LANIによるグループウェアソフトを活用し、事業部内、さらに財団全体で情報を共有している。また、財団共用の予算執行、決算管理等経理システムにより、経理事務を効率化し迅速な処理を行っている。コンサートホール単独のグループウェアソフトも併せて活用し、職員のほか委託業務スタッフ(清掃、警備、設備、舞台、レセプションист)にも公演やホール内施設の詳細な情報について連絡事項の共有を図っている。接客の際に必要な細やかな情報が共有できるようにグループウェアソフトの様式の更新を行っている。また、施設予約システムにより、施設予約の際にスピーディに対応し、かつ利用料金が分かりやすい帳票を提供する等、利用者の利便性の向上に努めた。</p> <p>▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)</p> <p>▼ 施設の安全運営に努め、専門技術・資格・経験を持つ人材を確保した。委託の際には、施設の安全と快適な利用に繋がるよう努め、委託者・受託者側双方に責任者を置き、監督と履行確認を行った。再委託を行うにあたっては、指定管理の協定書に基づき札幌市の承認を受け実施した。</p>	<p>適切な職員配置を心がけることで、仕事の効率化を図るとともに、コロナ禍の中でも魅力ある主催事業を企画し、質の高い音楽鑑賞の機会を提供できた。</p> <p>人材教育を図るため研修を充実させ、財団内部での事務・実務等の研修や、外部関係団体から講師を招いた研修を開催し、コンプライアンスや応急措置等、運営に必要な知識やスキルの習得に努めることができた。</p> <p>事業部及び財団全体で情報を共有。業務の円滑化に努め、事業部間の連絡においても効率化を図ることができた。特に、新型コロナウイルスに対する対応については状況に応じて迅速に情報を共有し、適切な感染拡大防止策を講じることができた。</p> <p>高度な技術と知識を有する人材を確保することにより、平日頃の点検・設備等の実施とともに、突発的なトラブルに迅速に対応できる体制を整えた。また、委託業者との綿密な連絡・報告により、施設を適切に管理することができた。</p>
---	--

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

開催回	協議・報告内容
第1回 令和4年 6月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度施設運営状況報告 ・4～5月の施設利用状況 ・令和4年度主催事業実施予定 ・25周年記念について ・第23代専属オルガニストの決定について ・施設見学会の開催について
第2回 令和4年 10月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・4～9月の施設利用状況 ・令和4年度主催事業報告及び実施予定 ・クロークの再開予定について ・オルガンノートの運用について ・2022Kitaraアルザスワインの販売について ・施設見学会の開催について
第3回 令和5年 1月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・4～12月の施設利用状況 ・令和4年度主催事業報告及び実施予定 ・ガイドラインの変更とその対応について ・転倒事故に関する対応策について ・第23代専属オルガニストの一時帰国について ・施設見学会の開催について ・Kitaraライトアッププログラム「NORTH POLE」について
第4回 令和5年 3月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・4～2月の施設利用状況 ・令和4年度主催事業報告 ・ガイドラインの変更とマスク着用について ・転倒防止工事の実施について ・施設見学会の開催について
<p><協議会メンバー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域: 曙地区連合町内会会長 ・利用者: キタラボランティア代表、オルガニスト、ピアニスト、音楽事務所代表 ・行政: 札幌市市民文化局文化部長 ・指定管理者: 札幌コンサートホール支配人(コンサートホール事業部長) 	

外部委員のさまざまな立場から有益な助言を得たことや、利用者や地域住民の声を把握できたことにより、管理運営上の課題の改善につなげることができた。

<p>▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)</p> <p>▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。</p> <p>▼ 現金や預金通帳及び印鑑、金券類は、分任出納員による厳格な管理を行い、内部監査などで定期的な確認作業を行っている。</p> <p>▼ 現預金の入出金については、複数の職員による確認を実施し、不適切な処理が行われないよう厳しくチェックを行った。</p>	<p>財務・収支状況を明確に把握しながら、適正な資金管理を行うことができた。現金については複数の職員による管理を行い、事故の防止を図ることができた。</p>
<p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>▼ 要望・苦情については速やかに報告書を作成、ホール内で対応策を検討し、職員への周知を徹底した。また、札幌市の所管課に相談する必要がある要望や苦情があった場合は速やかに所管課に相談するとともに指示に従った。</p> <p>公演に関する要望・苦情については、例年に引き続きレセプションとホール職員、主催者が連携を取り、状況に即し臨機応変に対処した。また、CS(顧客満足)会議やレセプションとの月1度の会議を通じて、お客様から直接聞いたご意見や要望等の情報収集・把握に努め、サービス向上や施設設備面での改善を行った。</p> <p>公式ホームページにはお問い合わせフォームを設け、要望や苦情等が寄せられた場合は、事実関係を迅速に確認し、電子メール等を通じて速やかな回答を行った。これら要望・苦情については、施設運営協議会や札幌市へ報告を行った。</p>	<p>お客様からの要望・苦情やその対応はグループウェアソフトや文書で速やかにホール全職員に周知し、委託業者へは会議などを通じて情報共有を行い、サービスの向上に努めた。</p>
<p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>▼ 要望・苦情等の対応は運営協議会で報告のうえ、委員からの意見・助言を得て改善を要するものについては対応できる体制を整えた。また、札幌市へ定期的に報告を行うとともに、分析結果は館内に掲示した。</p> <p>▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業日誌等 ・管理業務に関する諸規定 ・文書管理簿 ・各年度の事業計画及び事業報告書 ・収支予算・決算に関する帳簿 ・金銭出納に関する帳簿 ・物品の受払いに関する帳簿 ・各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類 	<p>来館者から寄せられた要望・意見はデータとして蓄積するとともに管理・運営の参考として業務改善に役立てることができた。</p>

(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)		A B C D
	<p>▼ 適正な内容で36協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しを行い、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、プロパー職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、プロパー職員については別途給与規程を定め明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。</p> <p>▼ 就業規則を含む例規集は、財団LANにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。</p> <p>▼ 定期的開催する役職者会議で職員の超過勤務時間を確認するとともに、適正な時間外勤務の執行に取り組み、職員の健康管理の増進及び仕事と家庭の調和の実現(ワークライフバランスの推進)に努めた。</p> <p>▼ 毎月の給与計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務課が社会保険労務士事務所へ委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。</p> <p>▼ また、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職場環境の向上に努めている。</p> <p>▼ 産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の事柄も含めた個別相談に応じる体制を採っている。また、各種ハラスメント対応のための専門相談窓口を設けている。</p> <p>▼ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、在宅勤務や時差出勤、義務免除や特別休暇を設けている。</p> <p>▼ 労働災害や通勤災害の発生はなかった。</p>	<p>36協定の内容を遵守するよう、長時間労働の状況把握及び業務分配等に取り組んでいる。</p> <p>雇用環境については、業務の効率化や人員体制の補強を行うなど、環境を整えるよう配慮している。</p> <p>また、札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業(ステップ3)として認証を受けているほか、6年計画で策定した次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画、及び3年計画で策定した女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を現在遂行中である。</p> <p>さらに、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、在宅勤務や時差出勤等を引き続き導入した。</p> <p>労働災害や通勤災害などの発生もなかった。</p>	<p>労働関係法令は遵守されており、また、労働協定に基づいた業務の見直しにも務めている。</p> <p>業務の性質上、時期による業務量の差があるものの、財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、様々な取り組みを進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>

(3) 施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)		A B C D
	<p>▼ 日常における施設の維持管理については、来館者の安全を最優先に心がけ業務を行った。</p> <p>▼ 施設損害賠償保険は、全国公立文化施設協会で運営する公共施設用に設計されたものに加入し、万一の事故に対応可能な体制をとっている。</p> <p>▼ 新型コロナウイルス感染症対策として、手指消毒剤をホール内各所に配置したほか、施設共用部やホール内、貸出備品等の定期的な消毒を行う等、業種別ガイドラインに則った感染予防対策を行った。</p> <p>▼ 令和4年度は、ホール内において転倒される方が、これまでより増加している状況にあったことから、転倒発生が多い客席エリアを優先し、札幌市による段差の視認性を高める対策工事を行ったほか、レセプションист(案内人)による声かけや注意喚起の掲示をするなど、ホールとしても転倒防止に継続して取り組んでいる。</p> <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>▼ 清掃や警備等の建物管理業務、電気設備や昇降機等の建物保守にかかわる設備管理業務のほか、照明・音響・レセプションистなど専門性を要するホール業務について、第三者委託により実施した。</p> <p>▽ 防災</p> <p>▼ コンサートホール消防計画に基づき、9月と1月にホール職員、常駐委託業者等を対象とする法定防災訓練を実施した。9月は小ホール公演中にホール内で出火したことを想定し、ホール職員と常駐業者(23名)による総合訓練を行い、1月は札幌市消防音楽隊と協力し、一般市民から参加を募り、大ホール公演中の火災を想定した演奏会付き防災訓練を行った(応募389名、参加者数261名)。</p> <p>火災報知器、消火設備点検については9月と1月に実施。防火対象物点検報告特例認定を申請し、令和5年2月9日から3年間の認定を受けた。</p>	<p>来館者の安全を最優先とした施設の維持管理のほか、必要な感染予防対策の実施や継続した転倒対策により、ホール利用の安全性・利便性向上を図ることができた。</p> <p>施設が持つ機能を最大限に発揮し、利用者の安全性を確保するため、計画的に保守点検を行い、不良・危険個所の補修を迅速に行うことにより、利用者に対する安全かつ快適な環境を提供することが出来た。</p> <p>実際の公演中に火災が発生する想定のもとで訓練を行ったことにより、火災をはじめ、危機に対する意識及び対応能力の向上につながった。</p>	<p>関係法令を遵守し、点検についても適切に実施している。新型コロナウイルス感染症対策についても、適切な対応を行っている。また、令和4年度は転倒者が増加したが、札幌市と連携して速やかに転倒防止対策を行い、事故抑止に努めている。加えて、ホール職員と委託業者のほか利用者参加型の防災訓練などにも継続して取り組んでいる。以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>

(4)事業の計画・実施業務	▽ 音楽鑑賞事業		A	B	C	D
			<p>▼ Kitaraワールドオーケストラシリーズ 世界トップレベルのオーケストラを招聘し3公演を実施した。 ・ロンドン交響楽団の音楽監督として最後の来札となったサー・サイモン・ラトルの指揮で同楽団による公演を実施し、満席のお客様にご鑑賞いただいた。 ・トップレベルの演奏を誇る「ファビオ・ビオンディ&エウローパ・ガランテ」を招聘し、古楽の新たな魅力を強く市民に印象づけた。 ・ベルリンを拠点に活躍する世界的な指揮者、山田和樹による横浜シンフォニエッタ公演を実施した。</p>	<p>令和2～3年度の改修工事や新型コロナウイルスにより数多くの公演中止を余儀なくされたが、久しぶりに海外からのオーケストラやソリストを招聘することができ、生の音楽を待ちわびた多くの市民に世界一流の優れた演奏の鑑賞機会を提供することができた。</p>	<p>著名なアーティストや地元の演奏家など様々な分野で活躍する出演者を選考、招へいし、上質な演奏を市民に提供していることは、来場者からも好評を博しているほか、音楽家の育成にも寄与している。また、親子が一緒に参加できるコンサートを継続的に開催している点は子どもの感性の涵養につながるとともに、保護者への音楽鑑賞機会提供の観点からも評価できる。専属オルガニストの帰国というイレギュラーな事態もあったが、パイプオルガン公演を中止せずに開催している。</p>	
<p>▼ Kitaraワールドソリストシリーズ ・日本を代表するオペラ歌手 森麻季、世界的に人気の高いハープ奏者のグザヴィエ・ドゥ・メストレによるデュオ・リサイタルと、キタラでは25年ぶりとなるサー・アンドラーシュ・シフのピアノリサイタルを実施し、両公演とも満席のお客様にご鑑賞いただいた。 ・国内外で活躍するヴァイオリニスト 庄司紗矢香とピアニスト ジャンルカ・カシオーリの二人による息のあったデュオ・リサイタルを実施した。 ・リスト音楽院セミナー講師で、長年音楽活動を共にするハンガリーの名手、マイクロシュ・ペレーニ(チェロ)とイシュトヴァーン・ラントシュ(ピアノ)によるデュオ・リサイタルを実施した。</p>	<p>多彩なジャンルの一流ソリストを招聘し、世界水準の演奏を市民に紹介することができ、来場者からは高い評価を得ることができた。</p>	<p>多彩なプログラムを展開し、幅広い年代へ音楽鑑賞の機会を提供しており、本市の要求水準を上回る管</p>				
<p>▼ Kitara 室内楽シリーズ ・ベルギーの実力派カルテットであるダネル弦楽四重奏団を独自招聘し、アジア初演の作品も披露するなど意欲的なプログラムで2日連続の演奏会を実施した。 ・リスト音楽院及びブダペスト・スプリング・フェスティバルから推薦を受けたハンガリーの優れた若手アーティストを紹介するプロジェクトの3回目として、チェロ奏者のゲルゲイ・デヴィッチを独自招聘し、満席のお客様にご鑑賞いただいた。</p>	<p>ダネル弦楽四重奏団公演は、ホールネットワークを生かした独自の企画で、創造的で上質な室内楽の鑑賞機会を市民に提供することができた。また、当ホールからの紹介でアクロス福岡やびわ湖ホールでも公演を行うことができ、他館とのネットワークを活用し、Kitaraから全国へ発信する事業に取り組むことができた。</p>					

▽ 音楽普及事業

▼オルガン事業

国内最大級の規模を誇るパイプオルガンと、専属オルガニスト制度を活用するとともに、国内で活躍するオルガニストも紹介し、土日、祝日の午後に低料金で市民が気軽に楽しめるコンサート6公演実施した。

・開館25周年を記念し、Kitara初の試みとして、オルガン演奏と人形劇のコラボレーションを企画し、満席のお客様にご鑑賞いただいた。

・国内の第一線で活躍するオルガニストの演奏をワンコイン(500円)で気軽に楽しむことのできる「オルガンウィンターコンサート」や、新旧専属オルガニストのデビュー及びフェアウェル オルガンリサイタル、市内高校合唱部との共演による「クリスマスオルガンコンサート」を実施した。

海外から毎年オルガニストを招聘する専属オルガニスト制度により、ヨーロッパで学んだ演奏家の演奏を市民に届けることができた。第23代専属オルガニストのヤニス・デュボワが健康上の理由により12月に帰国したが、国内で活躍するオルガニストを速やかに手配し、パイプオルガン公演を中止することなく提供することができた。開館25周年記念事業では、クラシック音楽等に触れる機会が少ない市民にも親しみやすい創意工夫を凝らした事業を実施し、幅広い層の観客にご来場いただくことができた。

▼札幌オーケストラシリーズ

道内唯一のプロオーケストラである札幌交響楽団と連携したコンサートとして、「きがるにオーケストラ」、「Kitaraのクリスマス」、「Kitaraのニューイヤー」の3公演を実施した。「きがるにオーケストラ」は、チケットが完売し、「Kitaraのニューイヤー」はS席、A席が完売となった。

札幌出身の指揮者、テレビでも大活躍の若手指揮者を起用し、YouTubeなどでも人気のピアニストや気鋭の若手箏奏者などのソリストを迎え、札幌公演の新しい魅力を届けることができた。札幌オリジナルのプログラムを企画し、オーケストラの魅力を存分に伝えることができた。

▼地元音楽大学等との連携事業

北海道教育大学及び札幌大谷大学と連携し、各校から推薦を受けた卒業生・在校生による「若い芽の音楽会」を実施した。

新型コロナウイルスの影響で舞台への出演機会が減少している地元の学生に、学びの成果を披露する場を提供することができ、演奏家のさらなるレベルアップに努めるとともに、次世代の演奏家育成の一助となった。

▼地元音楽家の活動支援・地元音楽団体との連携事業

・市民から公演企画を公募する「Kitaraアーティスト・サポートプログラム」では、7団体の応募があり、「下川朗コントラバスリサイタル」と「青木晃一(ヴィオラ)×石田敏明(ピアノ)のデュオ・リサイタル」の2企画を採択し、地元音楽家たちが創意工夫を凝らしたコンサートを開催した。
・札幌音楽家協議会とのプロジェクト「札幌の奏響Ⅲ」では、シリーズの最終回として室内オーケストラの演奏を中心に実施した。

地元音楽家の活動を支援することで、地域の音楽文化の活性化と演奏家自身のレベルアップに寄与するとともに、オリジナリティ溢れる公演を市民に提供することができた。

▼Kitaraアフタヌーンコンサートシリーズ

「そよ風のバロック～ヴァイオリン&チェンバロの音色にのせて～」、「びわ湖ホール声楽アンサンブル～美しい日本の歌」、「野平 一郎レクチャーコンサート」、「東京六人組」の4公演を実施した。「そよ風のバロック」、「野平 一郎レクチャーコンサート」は完売となった。

4公演それぞれ、ホールの音響特性を生かした独自の企画で、古楽、声楽、鍵盤、木管アンサンブルなど、様々なジャンルの演奏をお楽しみいただいた。また、出演者のお話を交えることにより、楽器や作品の魅力をより深く紹介することができた。館内レストランの割引特典や市内校長会等に協力を得た子どもたちへのチラシ配布の効果もあり、幅広い客層に足を運んでもらうことができた。

▼ホール開放事業 Kitaraあ・ら・かると

札幌コンサートホール全館を使用し、ゴールデンウィークの3日間にわたり、子どもから大人まで家族で楽しむことができるイベント「Kitaraあ・ら・かると」を3年ぶりに開催した。3歳、5歳から入場できるコンサートや、市内中学校の吹奏楽部によるコンサートのほか、見学会、オカリナづくり体験などを実施し、ホールや音楽に気軽に親しんでもらうことができた。

ファミリー層を中心に多くの方が来館し、完売となる公演も多く、普段クラシックを鑑賞する機会の少ない市民にも、キタラを身近に感じていただくことができた。

▼社会包摂事業

・札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2019
令和4年度障がい者向け文化芸術体験事業

「子どものための音楽ワークショップ」

・Kitara初の試みとして、特別支援学校及び支援学級
に通う児童を対象とした音楽ワークショップを実施し、
参加した児童、親、教員全員が笑顔で楽しんだ。

・0歳からのコンサート音楽の絵本

Kitaraに訪れる機会の少ないファミリー層が楽しめる0
歳から入場可能なコンサートを開催した。チケットは公
演1ヶ月前に完売し、当日は親子連れで大変賑わっ
た。

「子どものための
音楽ワークショップ」
では、障がいの違
いや程度に合わせ
た内容とし、障がい
の有無に関わらず、
参加できる場を提
供でき、普段文化施
設に足を運ぶことの
難しい子どもたちに
音楽体験の場を創
出することができ
た。

0歳からのコン
サート「音楽の絵
本」では様々な動物
に扮した奏者が演
奏を披露し、子ども
たちを魅了した。幼
児期の情操教育の
ひとつとして音楽の
人気は高く、普及振
興事業のひとつと
して引き続き力をい
れていきたい。

▽ 教育・人材育成事業

▼エデュケーションプログラム

・札幌市内及びさっぽろ連携中枢都市圏の小学6年生、244校、約17,000人を無料招待する「Kitaraファーストコンサート」を、6日間に渡り、11公演を実施した。
 ・オルガンワークショップは、5歳から入場可能なコンサート形式として「ひろがる！つたわる！オルガンのひびき」を実施した。オルガンのパイプや模型を持ち込んで、オルガンの音が鳴る仕組みを分かりやすく解説し、オルガンの魅力を伝える公演とした。

Kitaraファーストコンサートでは、曲目や進行内容を見直し、子どもたちにじっくりと曲を聴かせる内容としたほか、新たに楽器の音色を聴き比べるコーナーを取り入れるなど、Kitaraで聴く生の演奏をより一層楽しむことができるよう工夫した。

オルガンワークショップでは、多くの親子連れが鑑賞し、観客が手拍子で参加するプログラムもあり、子どもから大人まで楽しめるオルガン公演を実施することができた。

▼アウトリーチ事業

・札幌市との連携により、「学校DEカルチャー」企画として、移動可能なポジティブオルガンとともに八軒北小学校と西野小学校に出向き、オルガンの魅力を伝えるプログラムを実施した。第22代専属オルガニストと、札幌を中心に活動するオルガニストに出演いただいた。

Kitara大ホールでのオルガンの演奏動画と小学校へ持ち込んだオルガンの生演奏による合奏は、児童・教師にも好評であり、音楽の面白さを十分に伝えることができたほか、子どもたちがリコーダーでオルガンと共演するプログラムを設け、児童が「生」の音楽を楽しむ機会を創出することもでき、Kitaraのシンボルであるオルガンの魅力を児童へ伝えることができた。

▼セミナー事業

ハンガリーの伝統ある音楽教育機関「リスト音楽院」と連携し25回目となる「リスト音楽院セミナー」を開催した。3年ぶりにハンガリーから講師の方々に来札いただくことができ、世界的な音楽家からの指導を直接受けられるセミナーとして全国各地から40名の参加があった。セミナー最終日には、ピアノコース、チェロコース受講生が出演するコンサートを開催した。受講生の中から、2024年にブダペストで開催されるコンサートに派遣する最優秀受講生を選出した。

講師の人数や受講生の人数などもコロナ前の規模に戻して、例年通りの対面レッスンで実施することができた。25年間、世界的な音楽機関と協力し、若手演奏家が世界的な音楽家の指導を受けられる機会の提供により、札幌とハンガリーとの文化芸術交流にも寄与した。

▽全国ホール等とのネットワーク事業

・アクロス福岡及びびわ湖ホールと連携して、「ダネル弦楽四重奏団」公演を実施した。
 ・コンサートホール企画連絡会議加盟館のアクロス福岡及び所沢ミュージズと連携して、「東京六人組」公演を実施した。
 ・第22代専属オルガニストのニコラ・プロカッチーニを派遣し、国際基督教大学、サントリーホール、水戸芸術館、ザ・シンフォニーホールでパイプオルガンコンサートを実施した。

全国の類似ホールと広く情報交換しながら、共同で事業を企画制作することで、制作費を節減するとともに多様な音楽家の招聘や音楽家の交流の場を設けることができた。また、低廉な入場料金を設定することにより、多くの市民に来館いただくことができた。専属オルガニストを派遣することで、札幌コンサートホールのプロモーションや全国各地のホールとの交流を促進することができ、Kitaraのオルガン事業を紹介するとともに、道外でのオルガン音楽の普及に貢献することができた。

(6)付随業務	▽ 広報業務		A B C D
	<p>▼ 公式ホームページを活用した広報展開 公式ホームページでは、チケット発売情報や施設の案内、開催する公演情報を掲載したほか、主催事業の出演者インタビュー動画や特集記事を掲載するなど、コンサートの魅力や聴きどころを分かりやすく紹介した。</p> <p>また、Twitter・Instagramによるリアルタイムな情報発信を行い、音楽ファンの開拓を図った。</p> <p>平成30年度から引き続き「JIS X 8341-3:2016 高齢者・障害者等配慮設計指針-情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス-第3部:ウェブコンテンツ」に対応することを目標とし、ウェブアクセシビリティの確保と向上に取り組んだ。なお、ウェブアクセシビリティ取組確認を実施し、適合レベルAA(一部は適合レベルAAA) 準拠を達成していることを令和5年3月21日に公開した。</p> <p>【HPアクセス数】694,651件 (参考)R3:548,416件 【ページ総閲覧数】2,711,586件 (参考)R3:2,031,361件 【直帰率】43.89% (参考)R3:46.79%</p> <p>▼ 公演内容や対象層に合わせた広報展開 ファミリー向け公演やクリスマス、ニューイヤーなどのイベントシーズンに開催される華やかな公演については、広く一般に周知できるようにテレビCMや地下鉄車内ステッカー広告掲出等による広報を行った。また、世界的演奏者による公演については、市内のクラシックファンをターゲットとしてYouTube広告を配信するなど、公演内容や対象層に合わせた広報を行った。</p> <p>▼ 様々な媒体を活用した公演の魅力紹介 出演者のインタビューや公演メイキングといったPR動画の制作・配信を行い、視覚的・聴覚的に公演をPRした。</p> <p>また、ホールの広報誌であるKitaraNEWS特別号(年3回発行)において、主催公演の聴きどころを紹介する特集記事を掲載した。</p> <p>その他にも、FMラジオ番組において月1回オリジナルコーナーを設け、主催公演の魅力やクラシックの豆知識などを紹介し、クラシックファンづくりを図った。</p> <p>KitaraClub会員向けには過去の購買傾向に合わせた特別DMの発送、Kitaraアプリ会員向けには主催公演の内容を深掘りしたニュース配信をするなど、公演の魅力をより分かりやすく伝える広報に努めた。</p>	<p>公式ホームページをはじめ、TwitterやInstagram、YouTube等で職員が制作した主催公演PR動画を配信し、ダイレクトに公演の魅力を伝えることができた。</p> <p>また、ちらしだけでは紹介しきれない公演の聴きどころについて、特集記事としてKitaraNEWSやHPに掲載するほか、チケットセンターでは人目を引く店頭ポップで情報を発信し、より多くの市民の興味関心を惹くことができた。</p> <p>令和5年度もマスメディアや公共交通機関広告といった幅広い市民を対象とした広報に加え、ターゲットとなる層にピンポイントで届ける広報、またインターネットやSNS広告を活用し、若い世代に向けてホールをPRしていきたい。</p>	<p>アプリを使ったサービスを含む、多様な情報発信に努めている。テレビCMや地下鉄車内への広告掲出のほか、若年層への訴求力が高いインターネットやソーシャルメディアなどの媒体の積極的な活用に取り組んだことは高く評価できる。以上のとおり、本市の要求水準を上回る管理運営が行われている。</p>

▼ 演奏会チケットの販路拡大

札幌会員、PMF会員、札幌市労連共済センター、札幌商工会議所の会員に対しチケットの割引販売を行い、販路の拡大に努めた。

▼ Kitaraオリジナルグッズの制作・販売

ホール及び主催公演のPRを目的として、オリジナルグッズを制作し、店頭販売及びオンラインショップで販売した。

(1) KitaraClub (有料)

主催公演のチケット先行販売やチケット料金の割引、毎月のDM発送などの特典を提供した。新規入会における入会金・年会費の支払方法については「払込票払い」、「窓口払い」、「コンビニエンスストア払い」を提供した。更新会員の年会費支払方法については、新たにWEB上の会員マイページからのオンラインクレジットカード決済を導入し、利便性の向上を図った。

(R4:新規入会 全期:158件/後期:108件)

(R3参考:新規入会 全期:79件/後期:198件)

(2) Kitaraアプリ会員 (無料)

ニュース配信機能によるリアルタイムな情報提供に加え、チケット購入によるポイント付与や各種クーポン等を提供し、気軽にKitaraやクラシックを楽しんでいただけるきっかけとなるサービスを提供した。

(R4:新規入会 2,353件)

(R3参考:新規入会 3,250件)

▼ 開館25周年記念

令和4年度はホール開館25周年を迎え、この記念イヤーを効果的に告知するため、オリジナルロゴを制作し、中島公園内での記念フラッグの掲揚、エントランスホール内での装飾を行った。また、公式ホームページに、25周年特設ページを制作し、年間の公演情報や、ホールにゆかりのある音楽家等からのメッセージ、Kitaraギャラリーにおける「Kitara25周年記念展」の内容などを掲載した。

▼ 防災訓練・施設見学会・ゆきあかりin中島公園

ホールに親しんでいただくことを目的に、市民を来場者として参加いただく防災訓練や、施設見学会、ホールオリジナルのライトアッププログラムを製作・実施した。

KitaraClub入会状況は、新型コロナウイルスの影響による会員の減少傾向が落ち着いたことに加え、ホール25周年の目玉公演を目的とした新規入会者も多かったが、継続会員の高齢化が進み退会者も多く、昨年度に比べ会員数は若干減少したものの、アプリ会員については順調に会員数が増加している。

令和5年度は主催事業の広報と会員特典の内容を併せてPRし、引続き入会促進を図るほか、アクティブ会員を維持するため、引き続きタイムリーかつニーズのある情報配信に努める。

開館25周年を効果的・魅力的に周知することで、来館者や公園散策者に対して施設のPRを行うことができた。また、防災訓練や見学会などを通じて、安心した施設利用を促進し、また施設をより身近に感じてもらおう取組を行うことができた。

	<p>▼ 施設見学の実施 8件 238人 市民にコンサートホールへの関心や親しみを持っていただき、ホールの利用促進をはかるため、大小ホールなどを紹介する施設見学を実施した。</p> <p>▼ 施設見学会の実施 3回 178人 コンサートホールのPR及びKitaraファン拡大のため施設見学会を実施した。</p> <p>▼ チケットセンターでは、窓口販売、電話予約、公式ホームページからのインターネット予約による方法でチケット販売を行った。電話予約では窓口およびセブンイレブンでの引取や郵送対応を行い、インターネット予約ではオンラインクレジットカード決済、セブンイレブンでの引取サービスを提供した。また、窓口販売においては令和4年11月から電子マネーおよびQRコード決済を導入し、決済方法の拡充による利便性の向上を図った。その他、チケット予約システムの不具合を常に検証・改良し、サービスの維持に努めた</p>									
2 自主事業その他										
<p>▽ 「政策推進連絡会」の開催</p> <p>▼ 開催日 令和5年1月18日(水)</p> <p>▼ 意見交換等の項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の予算執行見込みと次年度予算について ・光熱水費について ・今年度の事業実施状況について ・次年度の事業展開について ・今後の政策推進連絡会について <p>▽ 自主事業</p> <p>▼ 売店事業 売上高 6,140千円</p> <p>▼ 自販機事業 売上高 1,447千円</p> <p>▼ レストラン事業 コンサートホールの主催事業と連携した特別メニューや割引サービスを提供し、ホールレストランとしての独自性をアピールし、集客増に努めた。 また、レストランの活性化について定期的に意見交換を行っている。</p>	<p>札幌市と連絡調整することにより相互の理解が深まった。</p> <p>グッズ事業、自販機事業ともに、前年度に比べ売上が増加した。 レストランについては、コロナ禍の中、飲食店のガイドラインに沿って感染症対策を実施し、来場者が安心して利用できるよう務めた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">レストランや売店など、来館者及びホール利用者の利便性向上に資する各種事業が実施されている。また、市内企業の活用や障がい者の雇用など、本市が推進する施策に配慮した運営を継続して実施していることも評価できる。以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	レストランや売店など、来館者及びホール利用者の利便性向上に資する各種事業が実施されている。また、市内企業の活用や障がい者の雇用など、本市が推進する施策に配慮した運営を継続して実施していることも評価できる。以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。			
A	B	C	D							
レストランや売店など、来館者及びホール利用者の利便性向上に資する各種事業が実施されている。また、市内企業の活用や障がい者の雇用など、本市が推進する施策に配慮した運営を継続して実施していることも評価できる。以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。										

<p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 委託業務64件を市内の企業に発注した。 ▼ 障がい者を雇用し、福祉施策に取り組んでいる。 ▼ 障がい者福祉支援施設よりオリジナルグッズを仕入、販売した。 	<p>大部分の再委託業務について市内企業を活用することができた。</p>										
3 利用者の満足度											
▽ 利用者アンケートの結果											
実施方法	<p>施設に関するアンケート用紙をエントランスホールに設置、一般の来館者(演奏会入場者以外も含む)を対象として、来館目的や回数、ホールで聴いてみたい音楽ジャンル、施設への要望などについて調査した。 回答数53件</p> <p>また、大・小ホールやリハーサル室などの貸館利用者・主催者には、アンケート用紙を手渡しすることとし、顧客満足度や意見・要望を把握することに努めた。 回答数47件</p> <p>なお、主催公演についても入場者にアンケートを実施し、公演内容の評価などを把握し、今後の主催公演の企画に生かしている。 回答数3,593件</p>	<p>改修工事に伴う休館や新型コロナウイルス感染拡大に伴う開催中止が続いた令和3年度に比べ、回答数は全体で7割程度増加した。</p> <p>お客様からのアンケート結果は随時集計・データベース化し、職員間で共有することでその後の対応に活かすよう努めている。</p> <p>各種アンケートは、運営協議会で報告し、各委員から意見を聞くとともに、館内に掲示することで広く公開できた。</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="background-color: yellow;">A</th> <th style="background-color: yellow;">B</th> <th style="background-color: yellow;">C</th> <th style="background-color: yellow;">D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>施設の総合的な満足度、ホールスタッフの接客に対する満足度ともに高水準にある。また、来館者からのアンケート結果を施設運営に活かしているほか、寄せられた意見や要望に対して、施設内で迅速に共有を図った上で、対応していることは評価できる。以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>施設の総合的な満足度、ホールスタッフの接客に対する満足度ともに高水準にある。また、来館者からのアンケート結果を施設運営に活かしているほか、寄せられた意見や要望に対して、施設内で迅速に共有を図った上で、対応していることは評価できる。以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>			
A	B	C	D								
<p>施設の総合的な満足度、ホールスタッフの接客に対する満足度ともに高水準にある。また、来館者からのアンケート結果を施設運営に活かしているほか、寄せられた意見や要望に対して、施設内で迅速に共有を図った上で、対応していることは評価できる。以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>											
結果概要	<p>・施設の設備、スタッフの対応、主催事業などに対して前年度に引き続き高い評価をであった。</p> <p>▼一般来館者 エントランスホールに設置しているアンケートに回答した方の総合的な満足度82.9%('とても満足'、'満足'、'普通'の合計)、ホールスタッフの接客に対する満足度は86.7%('とても満足'、'満足'、'普通'の合計)であった。</p> <p>▼貸館利用者 大・小ホールやリハーサル室などを利用した貸館利用者・主催者からのアンケートでは、総合的な満足度は99.9%('とても満足'、'満足'、'普通'の合計)、ホールスタッフの接客に対する満足度は85.0%('とても満足'、'満足'、'普通'の合計)であった。</p> <p>▼主催公演入場者 主催公演入場者の施設に対する総合的な満足度は96.7%('とても満足'、'満足'、'普通'の合計)、ホールスタッフの接客に対する満足度は94.2%('とても満足'、'満足'、'普通'の合計)であった。</p> <p>▼全体では、施設の総合的な満足度は96.5%('とても満足'、'満足'、'普通'の合計)、ホールスタッフの接客に対する満足度は93.9%('とても満足'、'満足'、'普通'の合計)の高評価であった。</p>										

利用者からの意見・要望との対応	貸館利用の主催者から「最高の音響と設備のもと、十分に音楽を楽しむことが出来るので、今後とも使わせていただきたいと思います。」とのお声をいただいた。各種設備の保守を定期的に行いホールの性能の維持向上に努めたい。
-----------------	--

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R4年度計画	R4年度決算	差(決算-計画)
収入	934,684	1,006,309	71,625
指定管理業務収入	897,178	969,645	72,467
指定管理費	630,941	671,096	40,155
利用料金	155,966	168,409	12,443
その他	110,271	130,140	19,869
自主事業収入	37,506	36,664	▲ 842
支出	958,430	987,515	29,085
指定管理業務支出	920,295	951,391	31,096
自主事業支出	38,135	36,124	▲ 2,011
収入-支出	▲ 23,746	18,794	42,540
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲ 23,746	18,794	42,540

▽ 説明

▼ 指定管理費について、今期は令和4年1月～令和4年10月の施設キャンセル、令和4年4月～令和5年3月までの光熱費高騰分の補填を受けたことにより、増収となった。

▼ 指定管理業務収入における利用料金収入については、コロナ禍の影響を見込んでいたものの、利用率は平年並に回復し、計画対比で12,443千円増加した。

▼ 指定管理業務収入におけるその他収入については、令和4年度文化芸術振興費補助金により助成金が18,474千円増加、世界的音楽家による演奏会の好調によって、入場料収益は計画より1,865千円上回ったことなどの要因により、計画対比で19,869千円増加した。

▼ 自主事業収入については、入場者数がまだコロナ前には回復していないことにより商品売上金収益が減少し、計画対比843千円減少した。

▼ 指定管理業務支出については、電気・ガス単価の高騰に伴い、計画対比31,096千円増加した。

▼ 自主事業支出については、商品売上金収益の減少に伴い、商品購入が減少したこと等により、計画対比2,011千円減少した。

コロナ禍の影響を受けたものの、施設利用については、適切な感染防止策、リハーサル室WEB申請の活用など、安全性や利便性の向上に努めることで、利用料金収入を計画以上に確保することができた。

主催事業においては公益性・創造性の高い事業企画により、助成金を継続的に確保したほか、広報にも力を入れたことで、入場料収益・受講料収益などを増加させることができた。

支出においては電気・ガスの高騰を受け、エネルギー使用量の節減、その他支出の計画的執行に努めたものの、光熱費が大幅に増加した。

光熱費の増加分について、指定管理費の改定がなされたため、指定管理業務収入が増加し、収支の良化につながった。

A	B	C	D

新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、多彩な公演の実施等により、入場料収益の確保に努めていることは評価できる。支出の増については光熱費単価の値上がりによる影響が大きく、やむを得ない事情といえるが、引き続き経費削減のための取り組みを進めるよう努められた。

＜確認項目＞ ※評価項目ではありません。		
▽ 安定経営能力の維持 当財団の財務状況等は、債務超過、累積欠損の状態になく、自己資本比率が50%以上のため、経営の健全性が保たれており、安定経営能力が維持されている。		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 適 不適 </div>
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応 <ul style="list-style-type: none"> ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対処した。 ▼ 情報公開請求はなかった。 ▼ オンブズマンについては、案件は生じなかった。 ▼ 暴力団関係については、案件は生じなかった。 		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> 適 不適 </div>

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>管理運営事業については、業種別ガイドラインに準じた感染対策を講じ、安心して利用いただけるよう努めた。その結果、大小ホールの利用率はそれぞれ前年度よりも増加となり、特に小ホールについてはコロナ拡大前の平成30年度、令和元年度を超える利用率となった。また、各リハーサル室については令和3年度に導入したオンライン利用申請及びクレジットカード決済が好評で、特に小リハーサル室A・Bについては、開館以来最高となった。</p> <p>アンケート結果は、施設の総合的な満足度、ホールスタッフの接客に対する満足度はそれぞれ96.5%、94.0%（「とても満足」、「満足」、「普通」の合計）と、高い評価を得ることができた。</p> <p>令和4年度はホール開館25周年を迎えたことから、25周年記念オリジナルロゴを製作し、中島公園内やホールエントランス、公式ホームページへの掲出などを通じて広く施設のPRに貢献することができた。</p> <p>主催事業に関する業務については、音楽鑑賞事業として、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、海外からもアーティストを招聘したラインナップとし、世界一流のオーケストラ、ソリスト、室内楽等、魅力的な公演を市民に紹介し、文化芸術の普及に取り組むことができた。</p> <p>音楽普及事業では、開館25周年記念のバースデイ公演として、Kitaraでは初の試みである人形劇とオルガン演奏とのコラボレーション企画を実施し、初めて来館した方やファミリー層が多く、新たな観客の開拓にも繋がり、音楽専用ホールであるKitaraでの新しい可能性を見出した企画となった。</p> <p>また、新たに障がいのある子どもたちにも音楽体験の場を提供することができ、Kitaraの事業を通して音楽の楽しみ方を知っていただくことができた。</p> <p>教育・人材育成事業では、子どもたちの感性を伸ばし、引き出す事業として「0歳からのコンサート」や3歳、5歳から入場可能なコンサート、小学6年生を対象とした「Kitaraファースト・コンサート」など、未来を担う子どもたちが成長に応じて継続的に文化芸術に触れる機会の創出を図った。</p> <p>ホール開館25周年となった令和4年度は、多くの公演が満席となるなど、主催事業の来場者数のアップに繋げることができた。社会情勢の変化や音楽シーンの動向を見据え魅力的な企画を提供することができたことに加え、SNSの発信頻度を上げることや地下鉄車内ツイステッカー広報、Kitara職員によるラジオ番組での公演PRなど市民に親しみやすい形での広報に力を入れた結果と考えている。</p>	<p>管理運営事業については、引き続き安全性の確保に努めるとともに、関係各社と協力・連携することで、利用者が利用しやすい施設であることを目指す。また、ホール独自の接客研修や、クラシック音楽に関する研修などを通じて、利用者サービスの強化に努める。</p> <p>主催事業では、指定管理計画に沿い、これまでの豊富な実績、経験、ネットワークを最大限活用し、世界で活躍するトップクラスの演奏家による質の高い公演はもちろん、市民のニーズや時代の音楽シーンを捉えた新しい音楽に触れる機会を提供することに、積極的に取り組んでいきたい。</p> <p>また、より多くの市民に豊かな心を育む音楽との出会いを提供し、新たなクラシックファン層の拡大を目指していきたい。そのための取り組みの一つとして、財団他施設との連携を充実させ、令和5年度事業では、教育文化会館事業部と連携した事業を実施する予定である。クラシックと古典芸能両方を楽しめる公演を行い、それぞれの施設のファンを取り込み、新しい客層を開拓していく。</p> <p>さらに、次世代を担う人々の育成支援として、未来を担う子どもたちに継続してKitaraに足を運んでもらえるよう、段階を経て音楽体験が広がっていく仕組みを定着させていくほか、若手アーティストや地元音楽家に、発表の場や活動の機会を提供していきたい。</p> <p>また、「芸術文化との出会いを全ての人へ提供」という当財団の重点取組項目の実現に向け、障がいの有無などにもかかわらず、誰もが気軽に音楽と出会い、楽しむことができる開かれたホールであるよう努めていき、これからも、子どもから高齢者まで幅広い聴衆にむけた公演を積極的に企画し、市民に期待される施設であり続け、市民にとってクラシック音楽がより身近な存在となっていくよう取り組んでいきたい。</p>

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>全般的に本市の要求水準を満たしており、適切な管理運営がなされている。</p> <p>総入場者数、施設稼働率は新型コロナウイルス感染症の影響を受けた前年度と比較し大きく回復したが、要求水準を下回っている。引き続き多彩な公演やその魅力を発信する広報によって、さらなる改善に向け取り組んでいくことが求められる。</p> <p>各主催事業では、質の高い多様な公演を実施し、市民へ音楽鑑賞の機会を提供したほか、地元音楽家への活動支援やオンラインを活用したセミナーの実施など、音楽文化の普及・人材育成にも力を入れていることは高く評価できる。</p> <p>このほか、利用者意見を基にした業務改善や施設の適切な管理によるエネルギー使用量の減少など、細かな取り組みを日々継続していることも評価できる。</p>	<p>経営状況においては、KitaraClub会員の減少に見られるように、長期的には入場者数が減少傾向にある。改めて、市民ニーズを検証するとともに、より魅力的な創意工夫ある事業の展開に努めていただきたい。また、クラシック音楽等に触れる機会が少ない市民にも親しみやすい事業の実施等により、若年層や新規鑑賞者の獲得に努めていただきたい。</p>